





marimekko

Seppel, Antti Kekki, 2022 / Viidakko, Pentti Rinta, 1981 / Kkaava, Annika Rimala, 1967

Marimekko: Art of Printmaking
—Beauty, Dream, Love

マリメッコ展

模様のちから

ジュニアガイド

2026.10.03 Sat. –
12.20 Sun.

主催 | 東京都庭園美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）
特別協力 | marimekko
協力 | ヘルシンキ建築＆デザイン・ミュージアム
後援 | フィンランド大使館
制作協力 | S2
企画協力 | 東映
年間協賛 | 戸田建設株式会社
Bloomberg
Van Cleef & Arpels

東京都
庭園
美術館

マリメッコってなに？

ヨーロッパの北部にある自然豊かなフィンランドで生まれた、世界的なデザインハウスです。マリメッコは、服だけではなく、食器やインテリア、建築まで、人々の生活すべてにかかわるデザインを手掛けている会社です。今から75年前の1951年に、アルミ・ラティア（1912-1979）がつくりました。



marimekko

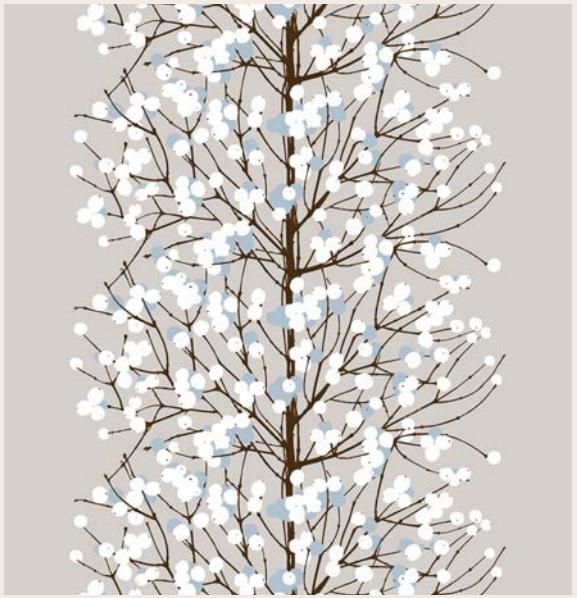


アルミ・ラティア Armi Ratia

鮮やかな色彩と大胆な模様が特徴的なデザインは、私たちの暮らしを明るく彩ります。デザインをする人、それを印刷する人、商品をチェックする人など、たくさんの人々の存在によって、マリメッコのデザインは私たちのもとへ届けられています。

Seppel, Antti Kekki, 2022 / Viidakko, Pentti Rinta, 1981 / Klaava, Annika Rimala, 1967

どんな模様があるの？



エルヤ・ヒルヴィ《ルミマルヤ》（雪イチゴ）2004年　Erja Hirvi, *Lumimarja*, 2004

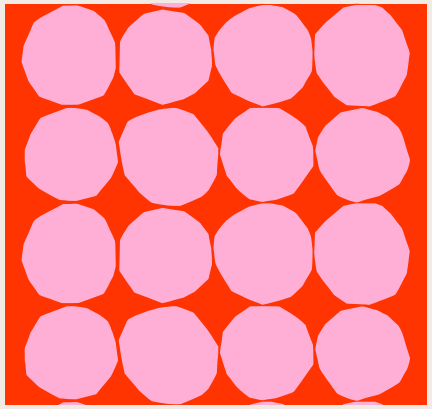
本物の枝をスキャンして作り上げた模様

自然のなかから発見した
アイデアを、紙の中にどうやって
デザインしていこうかな？

たとえば冬の太陽の朝の光、
お昼の光、夜の光は
どんな風に感じ方が違うかな？
――それはどんな色をしている？
どんな形で表現できる？

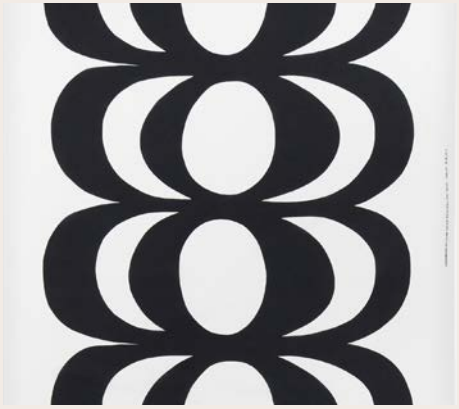
ルミマルヤは、冬に
白いベリーの実がなる木のこと

はさみで丸く切り抜いて作った「石」という名の模様



マイヤ・イソラ《キヴェット》（石）1965年　Maija Isola, *Kivet*, 1965

井戸の水面に波紋が広がる様子をもとに作り上げた模様



マイヤ・イソラ《カイヴォ》（泉）1964年　Maija Isola, *Kaivo*, 1964

模様を大きくすると、どうみえる？
小さくすると、どうかな？

この模様を大きな窓のカーテンに
してみたらどうだろう？

「コインの表」と「コインの裏」というタイトルがつけられた模様

面白いタイトルの模様が
たくさんあるね

ドレスの形にすると、
大きく切り取られていて、
また違う模様に
みえてきた？

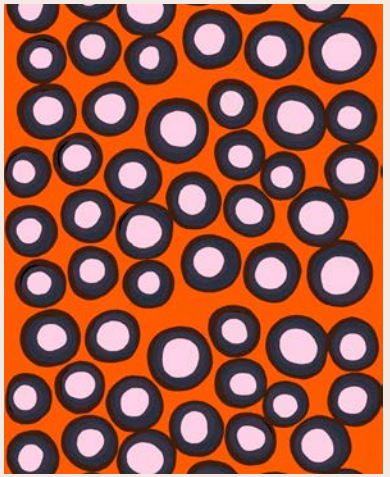


図案：アンニカ・リマラ《クルーナ》（コインの表）1967年
ドレス：アンニカ・リマラ《ベラクルース》（メキシコ東部の主要州）1968年
Pattern: Annika Rimala, *Kruuna*, 1967
Dress: Annika Rimala, *Veracruz*, 1968



図案：アンニカ・リマラ《クラーヴァ》（コインの裏）1967年
ドレス：アンニカ・リマラ《ミュリュスキュリュフテュ》（オイルランタン）1968年
Pattern: Annika Rimala, *Klaava*, 1967
Dress: Annika Rimala, *Myrskylyhty*, 1968

「石油」というタイトルがつけられた模様



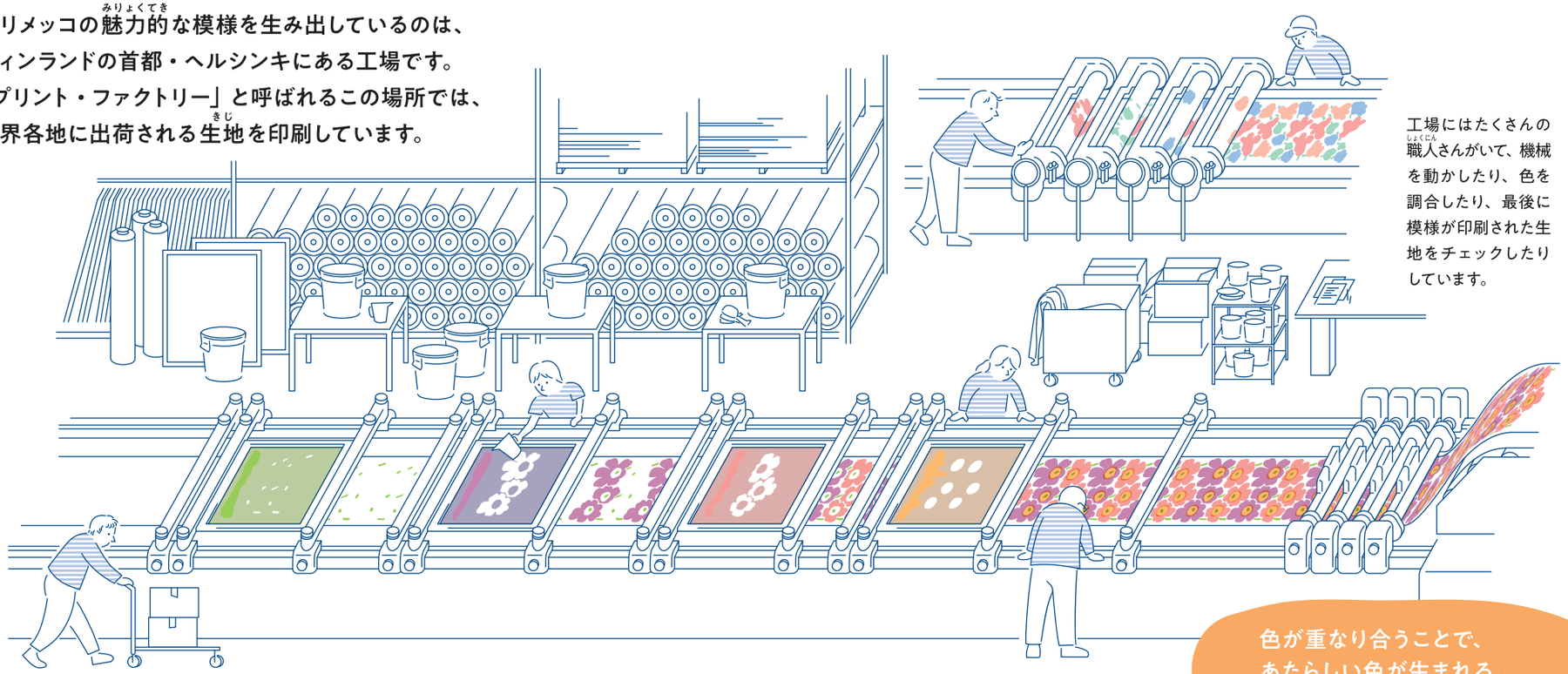
アンニカ・リマラ《ペトローリ》（石油）1963年
Annika Rimala, *Petrooli*, 1963



色が重なっている
部分があるね

図案：アンニカ・リマラ《ペトローリ》（石油）1963年
ドレス：アンニカ・リマラ《シールクス》（サーカス）1963年
Pattern: Annika Rimala, *Petrooli*, 1963
Dress: Annika Rimala, *Sirkus*, 1963

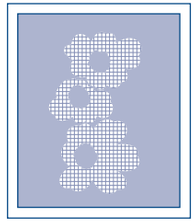
マリメッコの魅力的な模様を生み出しているのは、
フィンランドの首都・ヘルシンキにある工場です。
「プリント・ファクトリー」と呼ばれるこの場所では、
世界各地に出荷される生地を印刷しています。



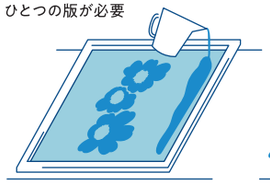
工場にはたくさんの職人さんがいて、機械を動かしたり、色を調合したり、最後に模様が印刷された生地をチェックしたりしています。

色が重なり合うことで、
あたらしい色が生まれる。
無限の色を作ることができるね

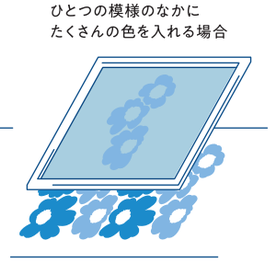
模様を生地に印刷する仕組み



1 模様が写された版（スクリーン）をまっさらな生地の上にセットする

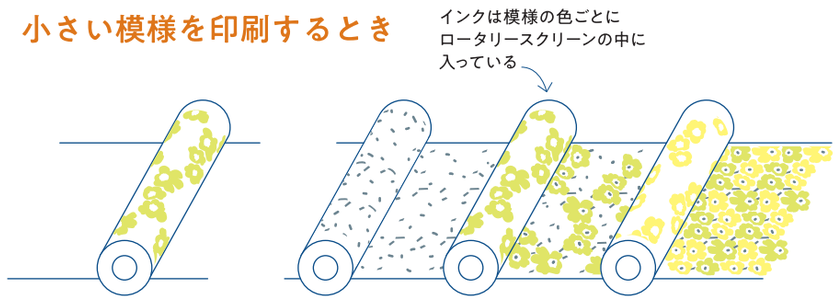


2 版の上に手作業でインクをのせると、生地に色が染み出していく



3 次の版を重ねて色を加えていく。最大で12版重ねることもある

小さい模様を印刷するとき



模様が写された版が円柱状になっている（＝ロータリースクリーン）

ロータリースクリーンがくるくる回転してそれぞれの色が順番に生地に染み出していく

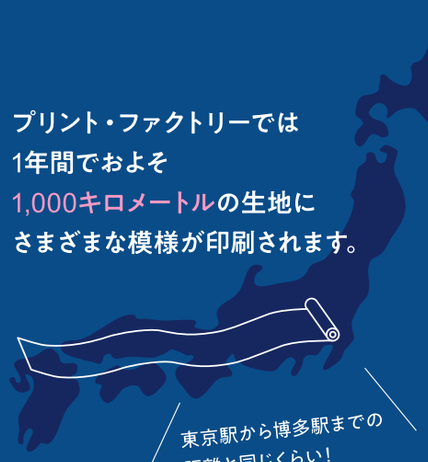
「Marimekko」はフィンランド語で
「マリのドレス」を意味します。



Mari
女性の名前（マリ）

mekko
ドレス

プリント・ファクトリーでは
1年間でおよそ
1,000キロメートルの生地に
さまざまな模様が印刷されます。



東京駅から博多駅までの
距離と同じくらい！

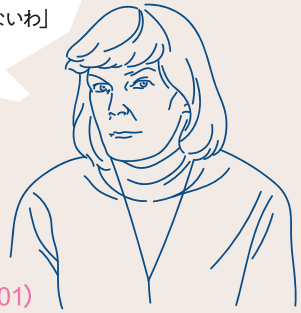
Chill Zone（くつろぎスペース）



工場で働く職人さんたちは、
たまにこのいやしスペースで休憩をとります。

マリメッコの模様をデザインしている人々はどんな人？

「私は、何でもパターン（模様）として見てしまうみたい。映画を観ているとき、雪や氷を眺めているとき、お皿を洗っているとき。ひょっとしたら、気に入ったものは全部そうやって見ているかもしれないわ」



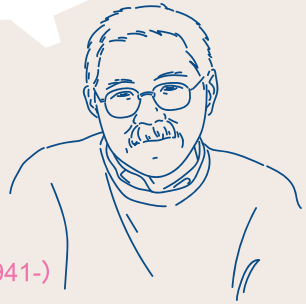
マイヤ・イソラ
Maija Isola（1927-2001）

約40年間にわたり、マリメッコで活躍した中心的なデザイナー。約500種ものデザインを手掛け、そのデザインは今でも工場で印刷され続けている。有名な《ウニッコ》を生み出した。



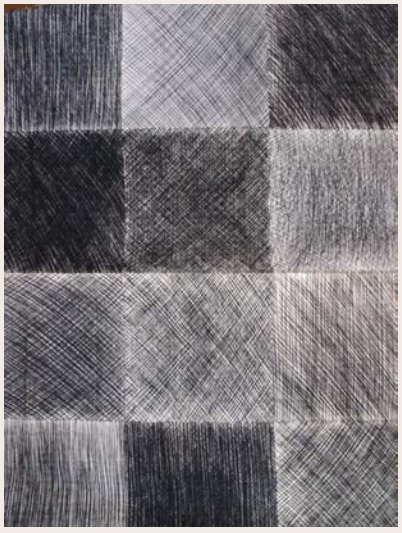
マイヤ・イソラ《ウニッコ》1964年
Maija Isola, *Unikko*, 1964

「デザインはとってもエネルギーが要る仕事」



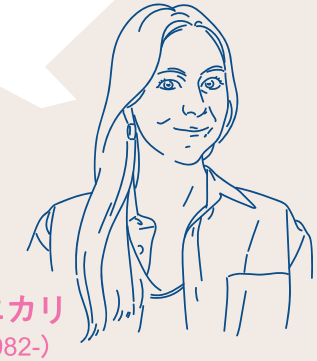
石本 藤雄
Fujiwo Ishimoto（1941-）

1974年から2006年までの約32年間にわたり、マリメッコで活躍した日本人のデザイナー。400種以上のデザインを手掛けた。小さく描いた下絵を実際に生地へ印刷するときは、大きく拡大して印刷した。



石本藤雄《マイセマ》（風景）1982年 Fujiwo Ishimoto, *Maisema*, 1982

「色が心に与える影響はとても大きいのです。素敵な色を見ると、元気になり、気分がよくなります。マリメッコは色が全てだと思っています。」



マイヤ・ロウエカリ
Maija Louekari（1982-）

2000年代以降のマリメッコを代表するデザイナー。植物や果物などを手描きの線で表現し、そのデザインは私たちに色々な物語を想像させる。「市民菜園」という意味の《シィールトラプータルハ》は、人気のデザインのひとつ。



マイヤ・ロウエカリ《シィールトラプータルハ》（市民菜園）2009年
Mija Louekari, *Siirtolapuutarha*, 2009

「制作しているときは、悲しい音楽を聴きます。悲しい音楽や映画の方が、私にもっとパワーをくれる気がするからです。何かを感じさせてくれるような。だからこそ、私はこんな楽しげな作品を作れるような気がします。なんでかはわからないけど。」



アンッティ・ケッキ
Antti Kekki（1990-）

2019年からマリメッコとコラボレーションをするアーティスト。さまざまな形を紙から切り取り、遊び心のあるダイナミックなデザインを生み出す。「花輪」という意味の《セッペル》は、《ウニッコ》が生まれてから60周年を記念して作られた。



アンッティ・ケッキ《セッペル》（花輪）2022年
Antti Kekki, *Seppel*, 2022

朝香宮邸の模様

今から93年前の1933年に建てられた「朝香宮邸」も、たくさんの模様に彩られています。
小さな模様から大きな模様まで、どこにどんな模様が隠れているでしょうか。

たくさんの模様があります。
どんな人が住んでいたのだろう…

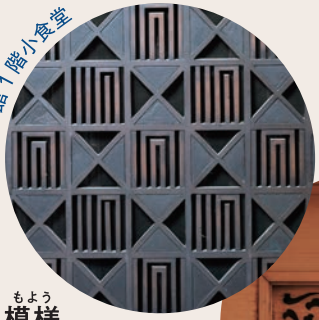
葉っぱや花びらのような模様

植物文様のレリーフ、
イヴァン＝レオン・プランショ作、
1933年頃、石膏

本館１階大食堂



本館１階小食堂



幾何学模様

香の図のレジスター、デザイン：大賀隆（宮内省内匠寮）、製作：深見専吉、
1933年頃、ブロンズ



左右対称の模様

天井の通気口、宮内省内匠寮、
1933年頃、木材（杉）

本館２階廊下



波や小さな鳥の模様

青海波に千鳥のレジスター、デザイン：大賀隆（宮内省内匠寮）、
製作：深見専吉、1933年頃、ブロンズ

フランスの模様と日本の模様が、同じ建物のなかにちりばめられています。

朝香宮邸には、左右対称の形や直線、幾何学模様や植物模様などがたくさんあります。それは、「アール・デコ」に特徴的なデザインです。
「アール・デコ」は1910年代から30年代の新しいデザインで、ヨーロッパで人気でした。とくにフランスを中心に発展しました。

本ジュニアガイドの制作にあたっては、以下の書籍・図録を参考にした。
●『マリメッコ展 模様のちから　Marimekko: Art of Printmaking –Beauty, Dream, Love』東映、2026年（展覧会図録）
●『マリメッコ展―デザイン、ファブリック、ライフスタイル』朝日新聞社、2016年（展覧会図録）
●『マリメッコ パターンとデザイナーたち』パイ インターナショナル、2013年
●『マイヤ・イソラ マリメッコのテキスタイル・デザイン』ピエ・ブックス、2006年（展覧会図録）

展覧会に出品されている図案と異なる場合があります。

マリメッコ展 模様のちから　Marimekko: Art of Printmaking -Beauty, Dream, Love ジュニアガイド

企画・発行：東京都庭園美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）
執筆・編集：斉藤音夢（東京都庭園美術館学芸員）　デザイン・イラスト：守屋史世、麻生ひかる（ea）

©Tokyo Metropolitan Teien Art Museum (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture), 2026

東京都庭園美術館